

国名	スリランカ民主社会主義共和国 (Democratic Socialist Republic of Sri Lanka)	
主要な言語	シンハラ語 (公用語・国語) 74%, タミル語 (公用語・国語) 18%, その他 8%	
人口学的データ	総人口 (人)	22,40万人
	15歳未満人口割合(%)	24.1%
	65歳以上人口割合(%)	9.7%
	平均寿命 (歳)	76.8
	5歳未満児死亡率 (出生千対)	10
	妊産婦死亡率 (出生10万対)	30
	中等教育就学率 (%)	男性(%) 84 女性(%) 87
	(UNICEF. State of the world children 2017, CIA. The World Factbook.2017.)	
主要な死因	1位 心疾患 2位 悪性新生物 3位 感染症 4位 呼吸器疾患 5位 肺性心疾患 (Annual Health Bulletin HP.2015)	
主要な民族	シンハラ人 74.9%, スリランカタミル人 11.2%, スリランカムーア人 9.2%, インドタミル人 4.2%, その他 0.5% (CIA. The World Factbook.2017.)	
主要な宗教	仏教 70.2%, ヒンズー教 12.6%, イスラム教 9.7%, カトリック教 6.1%, その他キリスト教 1.3%, その他 0.05% (CIA. The World Factbook.2017)	
日本在留外国人構成比	17,346人 (0.7%) (2016年末) (法務省, 在留外国人統計)	
文化社会的特徴		
1. 特徴的な価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・本音と建て前があり、自分の本心を言わない傾向がある。 ・人前で叱られたりどなられたりすることを嫌がる。特に、部下や子どもなど目下の人の前で叱られることを嫌う。注意する場合は、その人だけを呼んで注意する。 ・スリランカでは、歴史的に公衆衛生重視の政策がとられてきたこともあり、国民の健康レベルは比較的高い。人口の高齢化もあり、スリランカでは、高血圧や糖尿病など生活習慣に起因した慢性疾患が増加しているが、地域によっては、デング熱など熱帯特有の感染症もある。(杉本良男ら. スリランカを知るための58章. 明石書店. 2013) 	
2. 重要な意思決定にあたって留意すること	<ul style="list-style-type: none"> ・年長者の意見が尊重されやすいが、家族で話し合うことが多い。教育を受けた子どもの意見が強い家庭もあるので、意思決定に誰が関わるかは、個別に情報を収集する。 	
3. 食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・主食は米であり、ココナッツとスパイスで調理する野菜や豆のカレーを日常的に食べる。 ・食材のタブーは宗教や信条により異なり、スリランカ人にとっては大切なことであるので、本人に聞く必要がある。魚は食べても肉は食べない人、豚肉や牛肉は食べないが鶏肉は食べる人など、色々である。 ・宗教によらずベジタリアンは多い。ベジタリアンにも色々あり、乳製品や卵を食べる人もいるので、本人や家族に確認する。 ・ムスリムは断食月の断食を行う。仏教徒も宗教行事のため、食事をしない日がある(水分や果物は摂取する)。 	
4. 衛生に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの後は水で洗い流し、その後、石鹸で手を洗う。 	
5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に受診したり入院した場合、家族が送迎をしたり付き添うのは当たり前のことである。家族が入院した場合は、誰かが欠かさず面会に行く。また、特に繋がり深い人は、頻りに訪れる。家族が側にいることは、安心につながる。病気の時は、家族を頼りにする。 ・伝統医療は国から保護され、保健医療政策にも取り入れられている。人々は、日常生活の中で伝統医療を実践し、疾患や症状によって、近代医療と伝統医療とを選ぶ様子がある。 	
6. 妊娠・出産に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・男性医師が内診を実施することに対して抵抗感を持つ人もいるが、男性の産科医はいる。 ・性に関する話題を避ける考え方もあり、分娩の機序や呼吸法などの知識は少ないことが多い。 ・母乳哺育に価値がおかれる。 	
7. 育児に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚し、子どもを産み、家の仕事をこなすことに、女性は誇りを感じる人が多い。 ・出身地域や社会階層にかかわらず、子どもの教育には高い価値をおく。 ・女性の海外出稼ぎが多いため、祖父母が長期間の育児を担当することが稀ではない。 	

8. 高齢者に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・親族や肉親であるなしにかかわらず、年少者は年長者に対して敬意を示す。 ・人は地域に生まれ、家族や地域社会に見守られその一員として生涯を閉じるという社会文化的価値観が浸透している。(杉本良男ら：スリランカを知るための58章,明石書店,2013)
9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカ社会は多宗教であり、どの宗教の人も宗教活動を大切にしている。そのための休暇などは、互いに尊重される。多数派である仏教徒の宗教行事は毎月ある。 ・スリランカでは、死が近いとわかると、病人を自宅に連れ帰り自宅で死をみとることがしばしば行われる。 ・葬儀の内容や規模は、故人の社会的地位や経済力、宗教などによって異なるが、一般的には葬儀は大切な行事だと認識されており、立派な葬儀の実施のために借金をする人もいる。 ・宗教により、火葬か土葬かを行う。
10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、私立の病院・医院が増加し、公的医療機関よりも質の良い医療を提供していることが多い。医療費は国公立病院では無料であるが、私立病院受診の場合は、先払いが必要である。(外務省HP)
11. その他の保健医療に関する特徴	
12. 教育制度	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育：5歳～16歳。無償。 ・教育に対する国民の関心は高く、小学校第1学年の就学率はほぼ100パーセントであるが、落第制度があり、成績が悪いと進級できない。義務教育を修了するのは約80パーセントである。義務教育修了時にはGCE"O"レベルの試験（国家試験）があり、成績優秀者は高校進学資格を得ることができる。高校2年生時にはGCE"A"レベルの試験があり、この結果が大学進学、就職に大きく影響する。大学に進学する者は、約2パーセント弱である。(外務省HP.2017.)
13. その他の特徴	

担当者：大野夏代（札幌市立大学看護学部）
承認日：2018.2.11